

Publication:	中外文廣告 Concierge
Date:	2010.5
Section/Page:	P18
Size:	Full Page
City:	北京 beijing



廣告



榮榮(ロンロン、写真右)、映里(インリ)

福建省出身の写真家、榮榮さん(ロンロン、1968年生まれ)と彼のパートナーで神奈川県出身の映里さん(インリ、1973年生まれ)、公私にわたるパートナーとして、2000年より「RongRong&Inri」として共同で作品の制作を開始。05年はベルリン「Alexander Ochs Galerie」、06年にはニューヨーク「Chambers Fine Art」で個展活動を展開するなど、活動の幅を広げている。



三影堂攝影藝術中心

2007年6月、朝陽区草場地にオープン。設計は中国の著名な芸術家であり建築家でもあるアイ・ウェイウェイ(艾未未)氏によるもの。展示施設やライブラリー、カフェ、ショップが集まり、緑の広々としたスペースだ。朝陽区草場地155号A
6432-2663 10:00 ~ 18:00(月曜日、入場無料)
www.threeshadows.cn



家族全員が被写体となることも

People

アメリカやヨーロッパなど、世界各国の写真の現場において高い評価を受ける中国人と日本人の写真家夫婦、榮榮(ロンロン)さんと映里(インリ)さん。彼らの作品には、自分たちが被写体となり自然との融合を表現する力強さがある。彼らを創作へと掻きたてるのとは何なのだろう。

写真家 榮榮&映里 さん Rong Rong & Inri

日常のリアルから時を紡ぐ

一 二 三 影堂撮影芸術中心を知っているだろうか。中国の写真芸術を発展させる目的で開設された、民間による写真芸術センターだ。今年4月、この芸術センターが主催となり、アルル国際写真フェスティバルとの提携による「草場地春の写真祭」が開幕。世界の熱い視線が注がれている。この芸術センターを仕切るのは、写真家の榮榮さんと映里さん。もともと、映里さんは日本の新開社でカメラマンの仕事をし、榮榮さんは北京で創作活動を続けていた。1999年、榮榮さんが東京立川市の展覧会で作品を発表した際、映里さんがその作品を見て強く魅かれたという。その後写真を通して交流を重ね、2000年、2人は公私共にわたるパートナーとなる。彼らの創作では自然を背景に、自分たちが被写体となる。

作品から感じられるのは、圧倒的な存在感。「作品は生活のなかから生まれるもの。2人が共有している世界を表現しているので、作品は「RongRong & Inri」の名前で発表しています」と映里さんが語るように、作品は2人の日常そのものなのだ。中国は発展の真只中。至る所に開発の波が押し寄せ、三影堂撮影芸術中心も再開発の候補地となっている。「守りに入るだけでは未来や過去の遺産を守る術さえも見失ってしまう。今しか撮れない世界がある」。物腰の柔らかな2人であるが、力強く紡がれる言葉からは、長期的な視野を持って写真に向き合おうとする情熱が感じられた。時は佛く、移ろいやすい。しかし、だからこそ大切にしていける努力が必要なのだろう。榮榮さんと映里さんの作品は、そんなことを教えてくれた。